
内科系専攻医(後期研修)プログラム

1. 研修理念と目的

内科系専門医を目指して基幹病院での勤務をめざす医師から、医院診療所でのプライマリケアを目指す医師まで、すべての内科系医師に必要な能力取得を目標とした総合内科カリキュラムを基本にし、各種選択カリキュラムを用意して、内科認定医、認定内科専門医、呼吸器専門医、循環器専門医、透析専門医、脳神経内科専門医、プライマリケア専門医などの受験資格を取得できる構成となっています。

2. 本プログラム終了後の想定される進路

当院もしくは近隣の病院、診療所に正規雇用
関連大学での研修、大学院進学

3. 研修期間

初期研修後は3年間を基本とし、相談により適宜短縮延も可能とする。

4. 研修内容

(1)入院診療

1年目から2年目までは、総合内科については通年で担当する。内科学会認定医を取得後は、各自の研修状況に応じて、専門領域の選択カリキュラムを並行して履修する。

(2)外来診療

問診と身体所見からの診断能力が求められる総合医や内科医にとっての外来診療は、きわめて重要である。特に専門分化していない外来での経験が幅広い診断能力を養うために重要である。そこで1年目から総合診療科の初診および再診の外来を担当し、外来診療を研修する。レジデントの外来診療日には、必ず各科の指導医も外来を行っているため、適宜指導を仰ぐことができる。また、当直、内科オンコール、救

急トリアージなどに参加して、救急医療も継続的に研修する。専門診療科の外来研修にも適宜参加することが可能である。

(3) 検査・処置

各種検査を適宜期間と頻度を決めて研修をする。

	必須	選択	専門コース選択
消化器系	上部消化管内視鏡 腹部エコー	下部消化管内視鏡	内視鏡検査処置ほか
循環器系	心エコー	頸動脈エコー、 MDCT 冠動脈検査	心カテ検査処置ほか
呼吸器系	気管支ファイバー(挿入、吸痰)	気管支内視鏡検査	

(4) カンファレンス

毎週木曜日の総合内科、呼吸器カンファレンス。

(5) 訪問医療

脳神経内科医の指導のもと ALS の在宅人工呼吸の訪問診療を行う。

地域診療所医師と連携して在宅で終末期を迎えるケースの訪問診察を行う。

(6) 予防医療

人間ドック、特定保健指導、健康教室などを担当し研修する

(7) 研究・学会発表

鳥取大学地域医療研究所(兵庫県寄付講座)で取り組んでいる疫学研究などに、希望に応じて参加することが可能である。

症例報告などの学会発表は強く勧奨している。生涯学習の習慣を涵養するためにも、年に1回は学会で発表することが望ましい。

5. 選択コース

(1) 基本診療機能研修

・画像診断:放射線科研修 (1～2年目)

1年目に1か月画像診断研修をおこなう。放射線科医の指導のもと、CT・MRIの画像診断を行う。

(2) 専門医研修 (3～4年目)

- ・呼吸器
- ・循環器
- ・脳神経内科研修 (3～4年目)

(3) プライマリケア研修 (2～4年目)

- ・整形外科プライマリケア研修
整形外科に所属。総合診療科初診の整形外科領域の症例を診療し、整形外科
- ・小児科プライマリケア研修
中小病院、診療所勤務、開業に必要な研修を行う
プライマリケア学会専門医取得を目指す場合は6か月間

6. 指導医・施設認定・取得可能な専門医資格

(1) プログラム責任者

高内 善 (総合診療部長)

(2) 指導医

【常勤】	担当	専門医資格
高内 善	総合診療・内科	
河崎 雄司	呼吸器・腫瘍内科	呼吸器専門医
渋谷 純	内科・循環器・透析	循環器専門医
黒田 達実	総合診療・ER	内科専門医、循環器専門医、透析専門医
森田 親二	消化器・内科	

【非常勤】

清水 英治 呼吸器・膠原病アレルギー
田原 徹 血液内科

馬庭 幸二 呼吸器

呼吸器専門医、呼吸器内視鏡専門医

由良妃早子 腎臓内科

【内科以外】

菅澤 章 外科

消化器外科専門医、消化器内視鏡専門医

近藤 清彦 脳神経内科

神経内科専門医、病理専門医

小山 司 放射線科

放射線科専門医、核医学専門医

(3)取得可能な専門医資格

家庭医療専門医

内科認定医、認定内科専門医

呼吸器専門医

呼吸器内視鏡専門医

循環器専門医

透析専門医

消化器内視鏡専門医

プライマリケア学会科専門医

(4)教育施設認定

日本内科学会認定教育施設

日本循環器学会認定循環器専門医研修施設

日本神経学会認定制度教育関連施設

日本呼吸器学会関連施設

日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設

日本透析医学会専門医制度教育関連施設

日本プライマリケア学会

日本消化器内視鏡学会

総合診療再研修プログラム

1. 研修理念と目的

開業もしくは診療所勤務、予防医療、療養病棟、老人保健施設などでの勤務を想定した研修カリキュラムである。

2. 本プログラム終了後の想定される進路

当院の健康センター、老人保健施設、もしくは近隣の病院、診療所に正規雇用
医院開業

3. 研修期間

1年間を基本とし、相談により適宜短縮延も可能とする。

4. 研修内容

(1) 入院診療

療養病棟、障害者病棟の入院患者を担当し研修する。

(2) 外来診療

問診と身体所見からの診断能力が求められる総合医や内科医にとっての外来診療は、きわめて重要である。特に専門分化していない外来での経験が幅広い診断能力を養うために重要である。そこで1年目から総合診療科の初診および再診の外来を担当し、外来診療を研修する。レジデントの外来診療日には、必ず各科の指導医も外来を行っているため、適宜指導を仰ぐことができる。また、当直、内科オンコール、救急トリアージなどに参加して、救急医療も継続的に研修する。専門診療科の外来研修にも適宜参加することが可能である。

(3) 検査・処置

各種検査を適宜期間と頻度を決めて研修をする。

	必須
消化器系	上部消化管内視鏡 腹部エコー
循環器系	心エコー、
呼吸器系	気管支ファイバー(挿入、吸痰)

(4)カンファレンス

毎週木曜日の総合内科、呼吸器カンファレンス。

(5)訪問医療

脳神経内科医の指導のもと ALS の在宅人工呼吸の訪問診療を行う。

地域診療所医師と連携して在宅で終末期を迎えるケースの訪問診察を行う。

(6)予防医療

人間ドック、特定保健指導、健康教室などを担当し研修する

5. 選択コース

期間の延長など調整により内科系専攻医(後期研修)プログラムと同じ選択コースを選択可能。

6. 指導医・施設認定

基本的に内科系専攻医(後期研修)プログラムと同じ

専門医資格取得を希望する場合は、期間の延長などが必要